

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	秋田大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	秋田のがん検診、予防、遺伝、先制医療を実践するがん医療人を養成するコース（正規課程）（テーマ②）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん薬物療法専門医、放射線治療専門医、病理専門医、臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医、その他各種臓器別腫瘍専門医。						
修了要件・履修方法	必修を含む15単位以上を履修し、学位論文を作成する。 査読のある科学雑誌に掲載され、学内の最終試験に合格する（15単位）。 以上を要件とする。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> <p>基礎科目：生命科学研究概論（2単位）、臨床医学研究概論（2）、最新医科学研究（2）、医用統計疫学基礎・演習（2）</p> <p>専門科目：臨床腫瘍学特論Ⅰ（2）、臨床腫瘍学特論Ⅱ（2）から2単位以上</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>基礎科目：医科学研究セミナー及び基礎医学技術実習から5単位以上</p> <p>専門科目：がんゲノム情報と最新癌生物学（2）、患者の個人的な特性に基づくがん治療学（2）から専門科目の必修科目と合わせて3単位以上選択履修する。</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）、病理専門医（日本病理学会）、臨床遺伝専門医（日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会）、がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	「秋田のがん検診、予防、遺伝、先制医療を実践するがん医療人を養成するコース」では一次予防、二次予防といった検診、画像診断、ゲノム診断といった「がん診断」に焦点をあてた医療人の養成を目指す。広い意味での先制医療の拡充は早期治療介入につながり、この領域の医療水準の充実は秋田県に最も求められている。地域特性に立脚しているという点で独創性がある。						
指導体制	秋田県は高齢化率ワースト、がん死亡率ワースト、加えて人口減少率もワーストであるという日本の近未来の縮図のような地域的特徴を有する。このような地域の知の拠点として秋田大学にはがん薬物療法専門医、放射線治療専門医、病理専門医、臨床遺伝専門医、がん治療認定医といった次世代がんプロを養成するための指導医がそろっている。これらの指導陣によって「秋田のがん検診、予防、遺伝、先制医療を実践するがん医療人」の養成は可能である。						
修了者の進路・キャリアパス	「秋田のがん検診、予防、遺伝、先制医療を実践するがん医療人」は秋田県がん診療拠点病院である秋田大学医学附属病院に在籍させ、秋田県全体の「がん診療」の司令塔として機能させる。その一方で、実地医療の専門医としての能力も備えているので、グループ化した拠点病院にビジット型での診療支援にも従事する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
履修者数	0	3	0				

受入目標人数設定  
の考え方・根拠

都道府県内の秋田県がん診療拠点病院1，地域がん診療連携拠点病院3，地域がん診療病院6，がん診療連携推進病院2の合計12のがん診療病院がある。四国4県に匹敵する広い県土を有するため、きめ細かい診療を提供するためには必要な配置である。「秋田のがん検診、予防、遺伝、先制医療を実践するがん医療人」は秋田県内の「がん診療」の次世代のリーダーとなることが求められる。このような人材は地域がん診療病院以上のレベルの病院に1名以上が必要である。10名が養成されれば、将来的に各がん診療病院に1名を派遣できる。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数をコース全体で10人と設定した。